

学年	高校1年	教科	国語科	科目	現代の国語	単位数	2
教科書名	高等学校現代の国語 (第一学習社)			副教材名	読解現代文必携 キーワードの卵(尚文出版) 新演習現代文アチーブ3 四訂版 (桐原書店)		
コース・クラス	一貫クラス						

I. 目標

- 1 日本語で適切に表現する能力、的確に理解する能力を育てて伝え合う力を高め、大学入試に対応するための基礎力を養う。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
- 3 必要な情報を探す方法を理解し、情報の妥当性を考える力をつける。

II. 授業のねらい

- 1 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めること。
- 2 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めること。
- 3 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めること。
- 4 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させること。
- 5 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けること。

III. 授業の進め方

- 1 文章内容の理解を主とし、発問形式による教授方法やグループ学習によって学習を進める。
- 2 読解力向上のため、副教材を用いた演習を定期的実施する。
- 3 知識事項定着のため、副教材を用いた小テストを定期的実施する。
- 4 「日本大学付属学校等文芸コンクール」等に向けた創作活動にも適宜取り組む。

IV. 学習上の留意点

- 1 教科書の新しい単元に入る際は、予習として意味調べや漢字の書き取り、作品の通読を行うこと。
- 2 授業中には、板書や必要な情報をノートに書くこと。また配られた資料は、原則ノートに貼って保管すること。
- 3 毎時教科書、ノート、副教材を授業前に準備し、机の上に置いておくこと。
- 4 小テストに際しては事前にしっかり準備をし、事後には復習をして定着を図ること。
- 5 問題集は、授業担当者の指示通りに使用すること。(演習課題と自習課題の確認)

V. 定期試験

- 1学期 中間試験 : 「水の東西」、「『間』の感覚」初見問題
- 1学期 期末試験 : 「羅生門」、初見問題
- 2学期 中間試験 : 「ものことば」、「『同期の語彙論』という視点」、初見問題
- 2学期 期末試験 : 「岩井克人が語る『無』から『有』を生む貨幣」、初見問題
- 3学期 学年末 : 「不均衡な時間」、初見問題

VI. 評価の方法

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	「水の東西」 『『間』の感覚』	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・進研模試 	<ul style="list-style-type: none"> ・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴を把握する。 ・日本と西欧の居住構造の対比を捉える。日本で「内」と「外」がどのように捉えられているかを理解する。 ・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。 ・選択肢、記述問題を解くための要点をおさえる。
	5	※二つの文章を読んだ上で、見えるものと見えないものをどのように捉えているか、比較し、発表する機会を設ける。		
	6	「羅生門」		
	7	初見対策のための演習		
二学期	9	「ものごとば」 『『同期の語彙論』という視点』	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・進研模試 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ことばが人間に虚構の文節を与えること」とはどのようなことか、理解する。 ・動機と行為の関係、「動機の語彙」とは何かを理解する。 ・お金の価値はどこからくるのか、「自己循環論法」とは何かを把握する。
	10	※「ものごとば」を読んで、「言語の枠組みによって規定されて世界を認識している」具体例を考えたり、『『同期の語彙論』という視点』を読み、主張と反論構成の文章を書いたりする機会を設ける。		
	11	「岩井克人が語る『無』から『有』を生む貨幣」		
	12	初見対策 (共通テスト、私大対策)		
三学期	1	「不均等な時間」	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・小テスト ・提出物 ・進研模試 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例から一般論への展開と、対比の構造を読み取り、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・本文で述べられている人間と自然との関係を把握する。
	2			
	3			
		初見対策 (共通テスト、私大対策)		

- 1 定期試験・進研模試・授業内容を理解し、それを応用することができる。
- 2 小テスト…計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- 3 提出物…積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り込むことができる。

VII. 授業計画

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。